

サレジオ学院中学校・高等学校主催

「第1回 Salesic (サレジック)」開催レポート

【参加校】

サレジオ学院中学校・高等学校／神奈川県立霧が丘高等学校／神奈川県立鶴見高等学校
神奈川県立白山高等学校／相模女子大学中学部・高等部／杉並区立荻窪中学校

高校生の高校生による
高校生のための
合同演奏会



期末試験を目前に控えた6月下旬。横浜市都筑区にあるサレジオ学院中学校・高等学校のドンボスコシアター（講堂）にて、同校主催の合同演奏会「第1回 Salesic (サレジック)」が開催。当協会は「運営サポート」として、企画段階から携わり、実施要項の作成からタイムテーブルの組み方、前日の機材設営や当日の運営まで、様々な観点からアドバイスや参考事例等を紹介しました。

今回の「Salesic」の構想は昨年度の3月下旬からスタートしました。軽音楽部部長の柴田くんを中心に「音響」「照明」「ステージ」「運営」などの各部署をピックアップし、それぞれの仕事内容や必要になる人数を考え、役割分担表を作成。同時に合同演奏会のタイムテーブルを仮組みしたり、どこの学校をお誘いするのか、合同演奏会のネーミングはどうするのかなど、月に一度、当協会と幹部生徒、顧問の小川先生でミーティングを行い、進捗状況の確認や詳細を固めていきました。

当協会が合同演奏会の開催を推奨する理由は、部活動としての軽音楽部の素晴らしさが凝縮されているからです。これまで当協会では関東地方や中部地方、近畿北陸地方で軽音楽コンテストを開催してきましたが、大会に出場するのは一部の部員たち（バンド）であり、その先を考えた際に「本当にこれだけで良いのか。部活動のためにやっているのか？」と考えるようになりました。「校内ライブ」を定期的で開催している学校はたくさんあると思いますが、部内や学内の演奏会だけでは、どうしても閉塞的になり、なかなか横の広がり生まれず、井の中の蛙になりにかえりません。

一方で、他校の軽音楽部を招く「合同演奏会」は演奏技術は言うに及ばず、セッティングの手際の良さや立ち居振る舞い、挨拶や礼儀作法など、他校から学べる部分がたくさんあります。また、バンドや個人の演奏技術はまだまだでも、機材設営に積極的に取り組んだり、他校の生徒をスムーズに

誘導したり、ステージの転換を手伝うなど、合同演奏会の開催こそが、すべての部員が部活動の一員として携われる場であり、軽音楽部だからこそできる規模の大きな取り組みと言えます。

当協会では、各地の軽音楽コンテストでアンサンブルの出来を評価するだけでなく、「部活動として、どんなことに取り組めるのか?」「軽音楽部員として、何が出来るのか?」を考える機会を提供したいと考えていますが、かといって「自由に組み合わせてみましょう!」というのでは、なかなか進みません。様々な事例やアドバイス等を提案することで各校の規模や事情に沿ったものが出来上がり、ゆくゆくは部員たちが主体となって部活動を運営していけるはずで

す。今後も自校での合同演奏会開催の動きが広がっていくと、所属するすべての部員が運営に携わることができ、部活動としての機運を高めていけるのではないかと考えています。



▲前日準備の1コマ。音響機材や楽器などを組み立てます



▲音響調整中。部員たちも様子を見守り、学んでいます



▲無事に設営が終了。いよいよ明日は演奏会当日です!



▲各校の代表バンドが演奏を披露し、拍手を送りました



▲交代でオペレーターを担当。良い音量バランスに整えます



▲演奏後はインタビューを実施。トークで盛り上げました

【運営にあたった幹部生徒、顧問の先生、スタッフの声】



柴田 稟久くん (部長)

「やっと終わった…」という達成感と「終わってしまったんだな…」という喪失感が同居しています。僕が当日までのスケジュールを組み立てたり、演奏順を決めたのですが、誰かに依頼したり、周りの人に仕事を振ることの難しさを実感しました。次回は相手の都合や抱えている仕事を考慮した上で、どんどん任せていこうと思います。合同演奏会の直前にバンド内で揉めてしまったのですが、次の機会に向けて、演奏面も頑張りたいです。



弓田 大輔くん (副部長)

今回の合同演奏会の開催を通じて、部活動の取り組みや楽器演奏の向上心が高まりました。周りの部員に助けをもらうことが多かったため、次回からは自分の処理能力や仕事のスピードを上げていきたいと考えています。一方で達成感もあり、先輩が照明の操作や組み立てを理解してくれたので、次回からは心配ないと、特に午後の部のステージ転換はテキパキと動いていたので、次回につなげていきたいです。実りが多い2日間でした。



日井 駿くん (運営班リーダー)

担当部署の振り分け表を作成したり、前日の準備から主体的に動けた部分もあるのですが、企画段階から振り返ると、顧問の小川先生や部長の柴田くんをはじめ、周りの人たちに迷惑をかけてしまったところがありました。他者に依存し過ぎてしまっていたので、次回は受動的な姿勢ではなく、前日の準備から当日の片付けまで、主体的に取り組んでいきたいです。合同演奏会の運営という貴重な経験ができたことに感謝しています。



小川 剛史先生

部員たちは大いに成長しましたし、今まで以上に「部活動」らしくなったと感じました。これまでは自分たちのバンドの演奏に関して、うまくいったとか、失敗した…という観点でしか考えていなかったと思うのですが、今回のような合同演奏会を開催することで、バンド単位ではなく、部活動らしい一体感を作り上げることができたのが大きな収穫でした。今後は誰か一人が頑張るのではなく、組織として取り組んで欲しいと考えています。



小林 仰志 (軽音協)

部員の皆さんが作り上げるイベントということで、僕自身も楽しみにしていました。どの生徒さんも積極的な姿勢で取り組んでいたのが嬉しかったです。機材設営時は、なるべく専門用語を使わないようにし、いかにわかりやすく伝えるか?という点を意識して、アドバイスをさせていただきました。今回の合同演奏会で学んだことを今後活かしつつ、音響機材の正しい扱い方や知識を高め、後輩たちにつなげていってほしいと思います。



三谷 佳之 (軽音協)

ボク自身は予想通りでした。オンタイムに進まなかったり、予定していたものをカットするなど、「無事に終わることができたからよし!」とするのではなく、「どうやって今後につなげていくか?」というのが肝心です。自分たちで点数を付けてみると、誰一人として「100点です」と言わないと思います。足りなかった部分を反省し、どう改善していくかを考えるのが大切なので、ぜひ今回の経験を糧に、これからも頑張ってください。